鳥取県地域医療支援センター 広報誌　2022 / Winter vol.06

DOCトリ!

鳥取の地域医療を考えるマガジン　ードクトリ！ー

DOCトリ!　第6号　2022年2月発行　鳥取県地域医療支援センター

特集1　日野×日南×西伯 病院長座談会

特集2　「鳥取県医師確保奨学金」の最新情報をチェック
奨学金制度を活用して
地域を支える医師になろう！

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS 1

鳥取県内43病院の医師数は足りている？
2021（令和3）年の『医師数調査結果』が出ました

鳥取県では、県内病院において必要としている医師数の現状を把握し今後の施策に生かすため、毎年1月1日現在で「医師数に関する調査」を実施しています。

「必要数」とは、現行の診療体制を基本とした上で、各病院が令和3年4月1日に必要としている医師数です。

「現員数」は令和3年1月1日現在の医師数で、初期臨床研修医を除いています。

鳥取県全体
必要数 1,398.2人
現員数 1,163.7人
不足数 234.5人
充足率 83.2%
県内全域で医師数は不足

東部保健医療圏（14病院）
必要数 452.9人
現員数 353.6人
不足数 99.3人
充足率 78.1%

中部保健医療圏（10病院）
必要数 198.7人
現員数 142.7人
不足数 56.0人
充足率 71.8%

西部保健医療圏（鳥大病院を除く18病院）
必要数 344.2人
現員数 295.0人
不足数 49.2人
充足率 85.7%

鳥大病院
必要数 402.4人
現員数 372.4人
不足数 30.0人
充足率 92.5%

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談やお問い合わせはこちらまで

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること
鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195　FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・相談に関すること
鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviの配信を始めました

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに向けて県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに役立つ情報をメールでお届けします。どなたでもご登録いただけます。

ご登録いただいた方には、『DOCトリ!』を毎号お届けします！

「とっとりドクター Navi」ご登録住所の確認について
とっとりドクター Navi登録者の皆さまにおかれまして、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら、お手数ですが鳥取県地域医療支援センター（本ページ末尾）までご連絡をお願いいたします。なお、ご登録情報の変更については、鳥取県医療政策課ホームページの登録申込フォームでも承っております。

とっとりドクター Navi
登録申込フォーム ▸▸▸
https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm

広報誌名『DOCトリ！』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。
医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行　鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）　TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006
Eメール t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp　ホームページ http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/

□ 制作／有限会社キーワード　〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F　TEL 0857-29-4018

日野×　日南×西伯

病院長座談会

「みんなの健康を守りたい」医療の原点は、ここにある。

町の病院や診療所は、住民にとって病気治療や健康維持の入口であり、出口だ。保健、福祉等と力を合わせながら、住民がいつまでも安心して暮らせる仕組みを考え、うまく循環させるのも大きな役割。その手法や内容は地域によって異なり、時代によってもどんどん変化する。だからこそ面白く、そして難しい。

鳥取県南西部の中山間地で、そんな地域医療に奮闘する3つの病院がある。病院長を迎えて座談会を開催したところ、それぞれの町が抱える課題、地域医療の在り方、やりがい、若手医師への期待など示唆に富む話が繰り広げられた。地域医療の重要性が次第に大きくなっている今こそ、未来の“DOCトリ!”たちにその意義を感じてほしい。

各病院の概要

日野町

日野病院組合

日野病院

診療科　21科

病床数　99床

高齢化率の高い中山間地における中核病院として、CT、MRIなどの診療機器や無菌手術の可能な手術室を備えている。2020年には発熱外来棟を増築。外来に加え訪問診察を週3日行っており、訪問看護・リハビリテーションにも注力。また黒坂地区、二部地区に診療所を置いている。公共交通機関のない地域には患者送迎車を運行し、高齢患者の利便性を高めている。

日南町

日南町国民健康保険

日南病院

診療科　8科

病床数　99床

「町は大きなホスピタル」を院是に掲げ、病院スタッフが毎日のように町を行き交い、住民の在宅生活を支えるため訪問診療・訪問看護を積極的に推進する。「在宅支援会議」「地域包括ケア会議」を創設、毎週開催して院内外の保健・医療・介護・福祉など専門スタッフが集う。垣根を越えて情報共有、適切な支援策を考案・提供する体制を構築している。

南部町

南部町国民健康保険

西伯病院

診療科　11科

病床数　198床

自治体立病院としては県内唯一精神科を有し、病床の半数は精神病床、地域の精神科医療に貢献する。院内に認知症専門の医療機関「認知症疾患医療センター」を設置しており、診療や家族の相談に対応。また、急性期・回復期・療養期まで幅広い患者の受入体制も整えている。2021年3月「へき地医療拠点病院」に指定、精神科の巡回診療を行っている。

地域の医療ニーズを捉え、住民に選ばれる病院へ

谷口　鳥取県南西部の中山間地にある3病院は、立地も医療ニーズも様々だと思います。まずは、各地域でどのように医療を展開しておられるかご紹介ください。

孝田　日野病院では、できる限り日野郡内で医療を完結したいと考え、そのための医療機器を整えています。また、「田舎にいるから専門の先生に診てもらえない」とならないよう、1～2週間に1回程度は鳥大病院から専門医に来ていただき、日野町はもちろん、日南町や江府町も含めた住民の方に選んでいただけるような病院を目指しています。

佐藤　日南病院は、県境の町を支える〝入院機能を持ったかかりつけ病院〟です。町内での医療完結はかなり難しいですが、公的医療機関との連携システムを構築し、医療の均てん化に努めたいと考えています。

高田　西伯病院も、この地に育った人が長く関われる病院となることが目標です。病床の半分が精神科であり、認知症などの診療をしながら身体的なケアもできるのが大きな特長。高齢化の進む地域にあって精神医療の担う役割は高まっているので、その務めをしっかり果たしたいと思っています。

孝田　病院を維持するために、受診者を増やす努力もしなければなりません。日野町民の約3割は米子市内の病院へ行っています。誰もが最新機器のある病院で検査を受けたいと思うのでしょうが、受診者が集中すると予約が取りづらいし、回数も限定される。でも町の病院なら、いつでも検査を受けられる上、検査頻度も多いから早期発見・治療につながる。やり方を変えれば、市内の大きな病院より質の高い医療が提供できます。

佐藤　そうですね。私もよく日野病院にMRIを依頼しますが、「米子まで行くのは大変ですけど、日野病院なら行きます」という患者さんもいますから。

谷口　車で1時間走って市内へ出て、待ち時間が3時間、検査が1時間、診察は5分。元気な患者さんはいいけど、足腰が弱り、認知症などいろんな生活障害がかぶってくるともう通院できない。本来そういう在り方はおかしいと思うんです。

高田　なので私は、治療方針を決めたら「地元の一番近い先生は誰ですか」といって、患者さんの生活圏内で治療を進めてもらうということもしています。中山間地の病院で目指すのはそうしたところではないでしょうか。

病ではなく〝人〟をみる 医師だけでなく〝皆〟でみる

谷口　日南病院は従来から、「地域へ出かけていく医療」や「地域包括ケア」に重点を置かれていますね。

佐藤　はい。その中でやってきたのは「訪問診療」、そして「多職種連携」です。以前から「在宅支援会議」を行っており、日南病院の常勤医をはじめ、保健・福祉・介護・行政と、ほとんど全ての職種が参加します。顔が見える関係ができているので話がしやすい。すると、社会的処方がかなり容易になるんですね。患者さんが病気とうまく付き合いながら生活していくことを考え、様々な職種の人が連携してフォローする。

谷口　そうした取り組みを医学生や臨床研修医に学んでほしい。日野病院には「鳥取大学地域医療総合教育研修センター」があり、常に学生や初期臨床研修医が訪れていますね。

孝田　中山間地の病院は、大きな病院と比べて患者さんの特性や求めていることが違うということを知ってもらいたいですね。私は研修医の指導に携わっていますが、彼らは急性期病院で研修してきた医師の特性を全て持っています。

谷口　というと？

孝田　「肺炎で入院したのだから、肺炎が治れば帰す」という医療。患者さんがサルコペニアになって、足腰が立たなくなっていることには目がいかない。

谷口　リハビリをオーダーしないんですか。

孝田　そうなんです、ADL（日常生活を自立して送るための能力、指標）を高めてから退院させようという考えがなく、いかに早く治療を終え、いかに早く帰すかということに主眼がいっている。それは本当の医療ではありません。

日野×日南×西伯 病院長座談会

地域医療の今とこれから

日野病院組合 日野病院
孝田 雅彦 病院長

日南町国民健康保険 日南病院
佐藤 徹 病院長

南部町国民健康保険 西伯病院
高田 照男 病院長

鳥取大学医学部 地域医療学講座
谷口 晋一 教授

MASAHIKO KODA

大阪市出身。鳥取大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。同医学部附属病院消化器内科等を経て、2016年より現職。医療設備の充実を図るなど病院全体の運営に目を配りつつ、消化器・肝臓の専門医としてまた、かかりつけ医として診療にあたる。町広報誌に寄せる「病院長コラム」では、分かりやすい言葉で病気予防や健康の豆知識を届けている。

TORU SATO

米子市出身。自治医科大学医学部卒業。内科医として、県内各地の自治体立病院・診療所で地域医療を担う。2019年より現職。通院困難な患者への訪問診療、高次・専門医療機関との連携、回復期や在宅医療のフォロー、地域包括ケアなどを実践しつつ、それらをつなぐシステムづくりにも力を注ぐ。

TERUO TAKATA

鳥取市出身。鳥取大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。1990年に現病院精神神経科に着任以来、30年以上にわたり地域に密着した精神医療を目指して奔走。2005年には新設の「もの忘れ外来」「重度認知症デイケア」を担当。09年、認知症疾患医療センター長就任。18年より現職。患者の精神と身体、両面のケアに心を砕く。

SHINICHI TANIGUCHI

鳥取市出身。鳥取大学医学部卒業。同第一内科（現・病態情報内科学）入局。2010年、地域医療学講座を新設、教授に就任。地域医療の実践的な医学教育を進めている。さらには、14年鳥取大学地域医療総合教育研修センター、19年同家庭医療教育ステーションの開設に尽力。19年より県内初となる総合診療専門医の育成に取り組んでいる。

総合診療専門医は先駆者
ほかにはない面白みがある

高田　特にうちの場合は、大学病院で診る患者さんとは相当違うでしょうね。認知症は大抵、脳神経内科で診療されていますが、実際には精神科が関わらないといけないことがたくさんある。そうしたことを少しでも感じていただきたい。学生には訪問看護やリハビリの様子も見てもらい、ＡＤＬを維持しなければいけないという場面を体感していただくようにしています。

新しい道を切り拓ける総合診療専門医への期待値

谷口　総合診療専門医は「19番目の専門医」として、２０１８年から育成プログラムが始まりました。現在、総合診療専門医のプログラムに５名が参加しており、その第１世代が日野病院の中井翼先生、日南病院の大塚裕眞先生です。レジデントを受け入れてのご感想をお聞かせください。

佐藤　私がイメージしているとおりの活動をしてくださっており、感心しています。家庭環境や生活を見ながら、患者さんを全人的に診療していますし、多職種連携の重要性をよく理解していて、連携に必要なコミュニケーション能力なども高い。やはり総合診療専門医は、中山間地域の病院にマッチしていると再認識しました。

孝田　上の世代がそんなにいないから、ある程度自由に自分のやりたいことができる“パイオニア”ならではのやりがいも感じてもらいたい。若い先生たちでグループを組んで臨床研究をし、論文を書いたり、行政に働きかけを行ったり。自分で考えると面白みが出てくるはず。

谷口　大塚先生、中井先生には、下の世代を引っ張るリーダーになってもらいたいと思っていて、臨床現場から出たテーマを題材に研究してもらう計画を立てているところです。

　大塚先生は大学院で、「医療における不確実性と医師のパフォーマンスとの関連」について研究する予定です。このテーマは、実際の医療現場で経験する不確実性やあいまいさに、医師の感情やパフォーマンスが翻弄されるのはなぜか、という問いから生まれたものです。さらにサブテーマとして、総合診療医とそれ以外の専門医で、不確実性への耐性に差異があるのか、大塚先生は興味を持っています。

　地域医療だから、総合診療だから研究ができないということはなく、むしろ“総合診療だからこそやるべき”なんです。

日南病院、総合診療レジデント3年目の大塚裕眞先生が、日南町萩原地区の訪問診療に出向いている様子。

日野病院の中井翼先生も総合診療レジデント3年目。訪問診療で寝たきり高齢者の診察を行っている。

高田　患者さんと一緒に過ごせる時間があるからこそ、ここまで続けることができたと思っています。訪問診療で患者さんの生活空間に足を踏み入れると、苦労されている現実を目の当たりして悩むこともありますが、「先生のおかげで良くなった」と言われることに喜びを感じます。

孝田　私も高田先生と同じです。一人の患者さんを長く診られるのは、とてもやりがいのあること。研修医の時に出会った患者さんが、今でも診察に来てくれるのがうれしいですね。

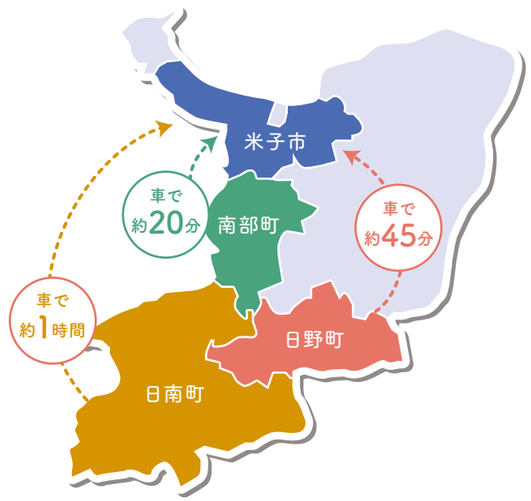
佐藤　地域医療＝訪問診療とよく勘違いされるんですが、訪問診療は手段であり、地域医療の目的は「地域づくり」です。住民が安心して生活できる地域をつくる。地域ごとの状況を踏まえ、自分で考えて、行動して、評価をする。治療だけに携わるのとはまた違った魅力があります。様々な職種と協働する経験もできるし、住民の生活が近いから「この患者さんはヘルパーさんに助けられ、デイサービスに通いながら、いろんな人たちに囲まれて生活しているんだな」と分かる。スペシャリストを目指す先生ほど、逆に地域医療を体験してほしいですね。そうすれば、大学病院にいても患者さんの生活がイメージできるようになるのではないでしょうか。

住民の人生と暮らしを支える地域医療は“地域づくり”

谷口　先生方はどのようなところに地域医療のやりがい、魅力を感じておられますか。

谷口　10年前に地域医療学講座を始めたときに比べたら、学生たちは地域に出る機会が随分増えています。この環境をもっと増やしていきたいし、その中で新たな人材を発掘し、育てていきたいと、新たな気持ちを抱きました。本日はありがとうございました。

データで見る各町と米子市



特集2

「鳥取県医師確保奨学金」の最新情報をチェック

奨学金制度を活用して地域を支える医師になろう！

鳥取県には医師確保奨学金貸付制度があります。制度利用の要件や大学卒業後のキャリア形成について、最新の情報をまとめました。鳥取県の地域医療に興味をお持ちの皆さん、ぜひ参考にしてください！

特別養成枠

緊急医師確保対策奨学金（特別養成枠）

募集人数	5人
入学試験	鳥取大学医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ（特別養成枠）
対象者	・県内高校卒業（見込）者（2浪まで） ・県外高校卒業（見込）者（2浪まで）で鳥取県に縁のある者 （本人・保護者等の出生地・本籍地・現住所地等が鳥取県内であること等）
申請時期	大学入学前年の10月頃
卒業後の身分等	卒業後9年間、県職員として知事が命じる病院で勤務

月額 15万円

キャリア形成イメージモデル（一例）

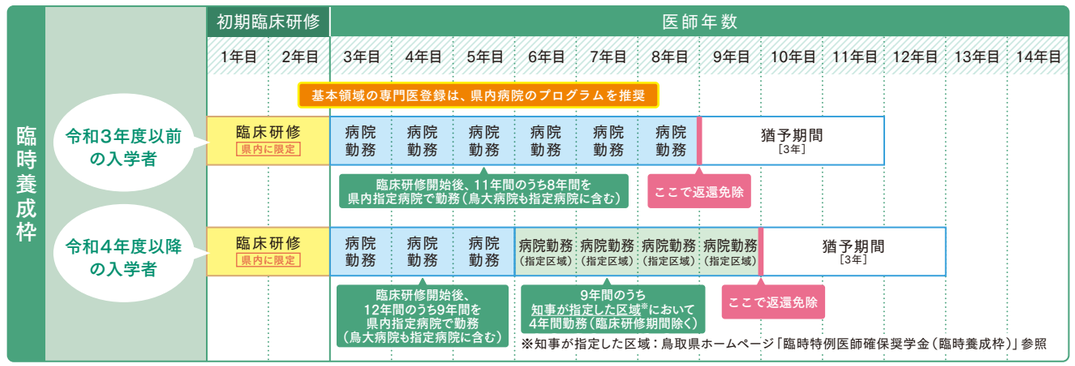
臨時養成枠

臨時特例医師確保対策奨学金（臨時養成枠）

募集人数	鳥取大学：14人　　岡山大学：1人
入学試験	鳥取大学医学部医学科一般選抜（前期日程）（地域枠（鳥取県）） 岡山大学医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠コース（鳥取県））
対象者	鳥取大学：出身地、卒業（見込）高校の所在地を問わない 岡山大学：県内高校卒業（見込）者（2浪まで）、 県外高校卒業（見込）者（2浪まで）で、 出願時本人または保護者が鳥取県内居住

月額 15万円

キャリア形成イメージモデル（一例）



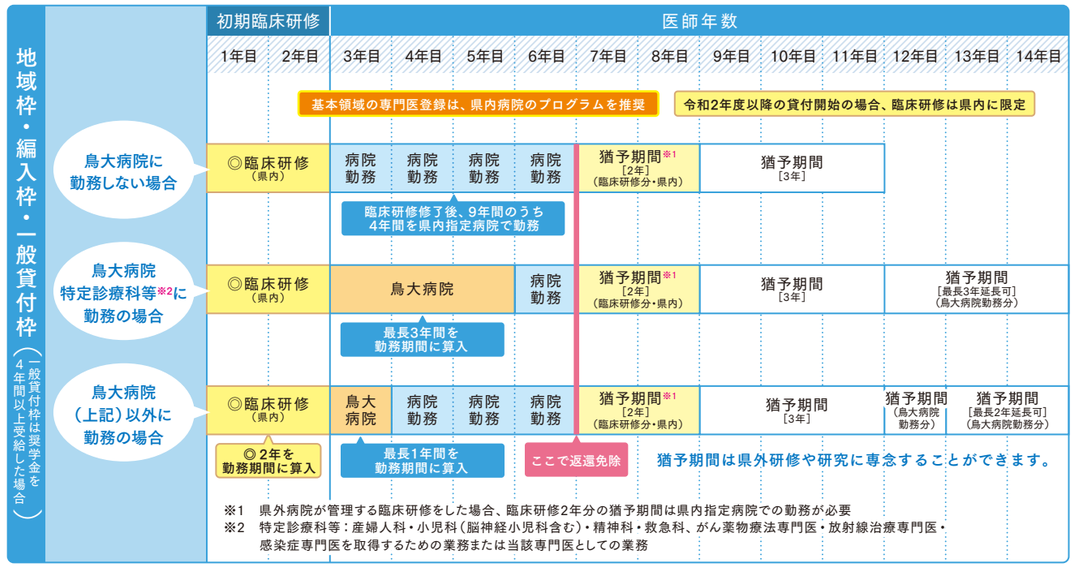
地域枠・編入枠・一般貸付枠

医師養成確保奨学金

地域枠	募集人数	5人以内
	入学試験	鳥取大学医学部医学科学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）
	対象者	県内高校卒業（見込）者に限る（2浪まで）
編入枠	募集人数	5人
	入学試験	鳥取大学医学部医学科学士編入学（2年次編入）
	対象者	大学等卒業（見込）者で、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、兵庫県の高校卒業者 または、父母のいずれかの現住所が鳥取県である者
一般貸付枠	募集人数	5人以内（1～6年生）
	対象者	鳥取大学：出身地、卒業高校の所在地を問わない 県外大学：県内高校卒業者に限る
	申請時期	4月～5月頃の貸付案内時

地域枠：月額 12万円
編入枠：月額 12万円
一般貸付枠：月額 10万円

キャリア形成イメージモデル（一例）



※1　県外病院が管理する臨床研修をした場合、臨床研修2年分の猶予期間は県内指定病院での勤務が必要
※2　特定診療科等：産婦人科・小児科（脳神経小児科含む）・精神科・救急科、がん薬物療法専門医・放射線治療専門医・感染症専門医を取得するための業務または当該専門医としての業務

●詳しい内容を知りたい方は、鳥取県ホームページ「医師確保奨学金の制度概要」の各制度をご覧ください。

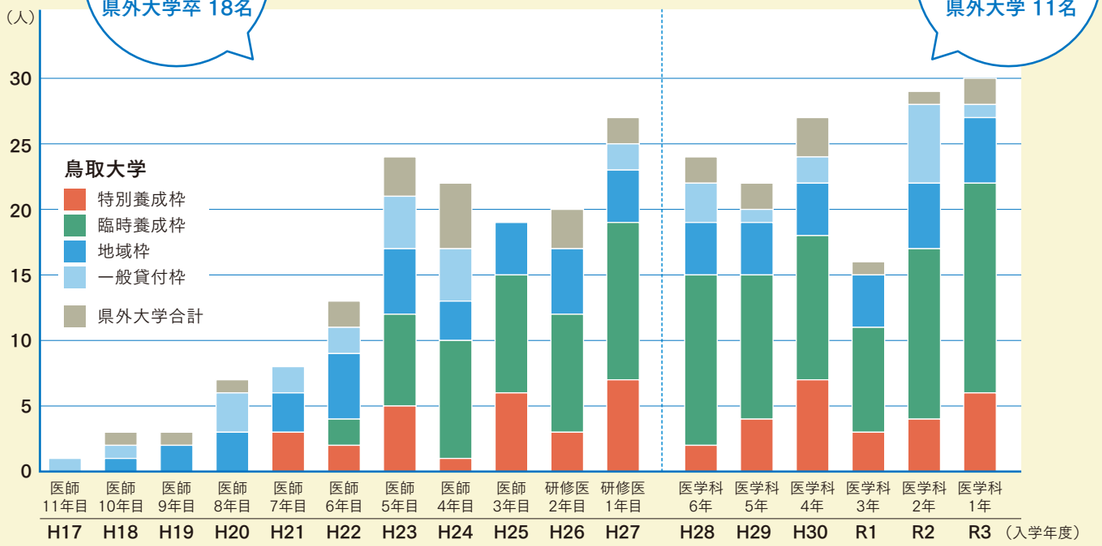
●学校推薦型選抜Ⅱの「特別養成枠」・「地域枠」の併願等については、鳥取大学の学生募集要項等でご確認ください。

奨学金受給者の状況

（令和3年7月1日現在の実数）

医師
鳥取大学卒 129名
県外大学卒 18名

医学生
鳥取大学 137名
県外大学 11名



鳥取県の未来づくりには地域医療を担う医師の存在が欠かせません。

鳥取県内の医療従事医師数は増加傾向にありますが、医療の高度化、専門分化等により多くの医師が必要となっています。しかし、県内病院を対象に実施している「医師数に関する調査」（裏表紙参照）によると、多くの病院で医師不足が続いている状況です。

また、県内医師の年代別推移を見ると、60歳以上が増加傾向にある一方、働き盛りの30歳代は減少傾向にあり、高齢化が進行しています。近年は県地域枠等医師の勤務が増え、20歳代の医師が増加傾向にあるものの、鳥取県の医療提供体制を将来にわたって維持していくためには、より一層の若手医師の確保・定着が必要となっています。

現在、県内で臨床研修を開始する医師の約半数が地域枠等医師となってきており、将来の鳥取県の医療を担っていただく重要な存在となっています。今後もこの「鳥取県医師確保奨学金制度」を多くの方に活用していただき、医師の養成・確保を図っていきます。

奨学金に関するギモンにお答え Q&A

Q1 ほかの奨学金も同時に利用できる？

卒業後の医師としての就業先を限定するものでなければ併給可能です。
※ただし、鳥取県育英奨学資金を除く。

Q2 出産や育児、介護の休暇を取得した場合、猶予期間は延ばせる？

所定の書類を提出していただくことで、猶予期間を延長することができます。

Q3 子育て中の短時間勤務は換算される？

常勤医（当該病院等において定める医師の勤務時間のすべてを勤務し、かつ1週間当たり32時間以上勤務する医師）であれば勤務期間に算入されます。

1度は行くべし！ TOTTORI☆イチオシ名鑑

Enjoy Tottori life!

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介します。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ！

遊 @Middle

円形劇場くらよし フィギュアミュージアム

誰もが一度は集めて遊んだあのフィギュアたちが勢ぞろい

1955年建築の元小学校校舎という、珍しい円形の建物が目印。館内には恐竜や動物、ミリタリーもの、人気アニメのキャラクターなど、約2千点のフィギュアがズラリ！好きなキャラを発見したら心は一気に子ども時代へ。顔を近付けてマジマジと観察してしまいます。小さくても実物と変わらぬ精巧な作りには感動するしかありません。

見るだけでなくフィギュアで自由に遊んだりジオラマを背景に撮影したりできる「特撮ルーム」、当時の教室がそのまま残された部屋もあり、時間を忘れて楽しめますよ！

住 倉吉市鍛冶町1丁目2971-2 ☎ 0858-27-1200
営 9：00～17：00（最終入館16：30）
※7～9月は～18：00（最終入館17：30）
休 年中無休
¥ ＜高校生・一般＞1,200円、常設展のみ1,000円、特別展のみ600円
＜小・中学生＞600円、常設展のみ500円、特別展のみ300円
P あり（無料） 北条倉吉道倉吉ICから車で約7分

食 @Eastern

Cafe & Dining San

特製サンド&のんびり空間で心も体もリフレッシュ！

▲特製ローストビーフグリルサンド（サラダ・ポテト・スープ付き）990円
テイクアウト 810円 ※サラダ・スープは付きません

住 八頭郡八頭町見槻中154-2
☎ 0858-72-3330
営 10：00～17：00（～11：00はドリンクのみ）
休 火曜日 P あり（無料）
若桜鉄道隼駅から徒歩で約3分
河原インター線船岡ICから車で約5分

赤身肉を低温調理したローストビーフを、鉄板でカリッと焼き上げたカンパーニュでサンドしたこちらは、お店の一番人気メニュー。食べやすい大きさに切ってかぶりつけば、ガーリックソースがさらに食欲をかき立てます。TAKE OUTできるのもうれしい限り。

旧隼小学校の校舎を改装した店内はとっても広々。テーブル席のほか、お子さま連れに優しいじゅうたんスペースも。天気の良い日なら校庭に面したテラス席が最高。カップルで、ファミリーで、美味しいサンドを食べながらのんびり過ごしてみませんか。